



紙面から

お知らせ
 10月は日野市環境月間..... 2

お知らせ
 太陽光発電システムなどへの補助金をご利用ください 2

お知らせ
 「くらしと行政」総合市民相談を開催..... 4

特集
 健康フェア&くらしのフェスタ..... 8

特集
 10月からインフルエンザ予防接種が変わります 8

10月16日(土) 始発から 新しいミニバスのスタートです

便利で分かりやすいミニバスにするため、「日野市地域公共交通総合連携計画」に基づき路線の再編を実施します。今回の再編は、現在の事業規模を変えずに重複路線の解消などの効率化を図り、事業収支の改善を目指します。再編後は、次の段階としてその収支改善分を新規路線の開設や既存路線の増便などに充てていく予定です。詳細は10月上旬に全戸配布するパンフレットを参照してください。
 園都市計画課、京王電鉄バス(株)桜ヶ丘営業所 (☎042-591-2712)

再編の目的

一般路線バスやミニバスなどの公共交通の役割を明確化するため、体系的な公共交通ネットワークを作ります
 分かりやすいミニバスにするため、重複路線の解消などを実施し、路線網を単純化します
 運行間隔の短縮やラウンドダイヤ化(毎時間定時発)及び乗り継ぎの簡略化により、便利で利用しやすいミニバスにします

再編の方針

最寄りの3大拠点(日野駅、豊田駅、高幡不動駅)へ乗り継ぎなしで利用出来ること
 市役所・市立病院へ直接、または乗り継ぎ1回で利用出来ること

乗り継ぎ制度について

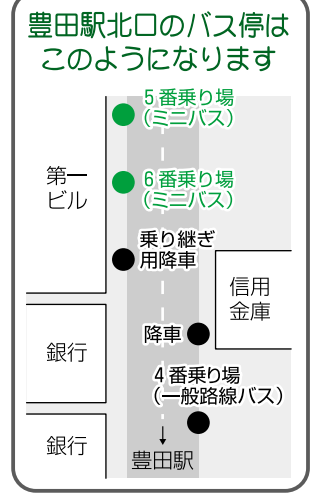
各地域と市役所・市立病院の間を「通し運賃」とします。

趣旨・目的
 市役所・市立病院への交通の利便性を図ります
 路線分割に伴う既存利用者のサービス水準を確保します

利用方法
 乗り継ぎポイント(豊田駅北口・高幡不動駅)で降車する際、1乗車目の運賃を支払い、乗り継ぎ旨を乗務員に申し出る
 乗り継ぎ券を受け取り降車する
 2乗車目に乗車する
 目的地で降車する際、乗り継ぎ券に表示された運賃を支払い降車する

路線分割による乗り継ぎ負担の軽減策(豊田駅北口)

乗り継ぎ先の発車バス停で降車出来ます
 乗り継ぎ先のバスの発車時間を調整し、市立病院・市役所方面へは待ち時間を5~10分とします
 乗り継ぎバス停にベンチと屋根を設置します
 分かりやすい案内表示をします
 乗り降りしやすい車両の導入を図ります



乗り継ぎ対象路線(概略)

豊田駅(北口)

高幡不動駅行 番乗り場

7		55
8	15	35 55
9	15	35 55
10	15	35 55
11	15	35 55
12	15	35 55
13	15	35 55
14	15	35 55
15	15	35 55
16	15	35 55
17	15	35 55
18	15	35 55
19	15	35

旭が丘循環路線 番乗り場
午前7時~午後6時の毎時35分発

平山循環路線 番乗り場
午前8時~午後6時の毎時25分発

日野駅

高幡不動駅行 市内路線 番乗り場

8	16	56
9	36	
10	16	56
11	36	
12	16	56
13	36	
14	16	56
15	36	
16	16	56
17	36	
18	16	56
19	36	

豊田駅北口行 市内路線 番乗り場

7	31
8	11 51
9	31
10	11 51
11	31
12	11 51
13	31
14	11 51
15	31
16	11 51
17	31
18	11

高幡不動駅

豊田駅(北口・南口) 北野街道口行 番乗り場

7	0	12	40	52		
8	20	32				
9	0	5	12	40	52	
10	5	20	32			
11	0	5	12	40	52	
12	5	20	32			
13	0	5	12	40	52	
14	5	20	32			
15	0	5	12	20	40	52
16	0	5	20	32	40	
17	0	12	20	40	52	
18	0	20	40			
19	0	20	40			
20	0	20	40			
21	0					

聖蹟桜ヶ丘駅行 番乗り場

7	30
8	10 45 50
9	30 45
10	10 45 50
11	30 45
12	10 45 50
13	30 45
14	10 45 50
15	30 45
16	10 45 50
17	30 45
18	10 45 50
19	30

緑...市内路線(豊田駅北口行)
 黒...南平路線(豊田駅北口行)
 緑(太字)...川辺堀之内路線(豊田駅南口行)
 黒(太字)...南平路線(北野街道口行)

緑...落川路線
 黒...三沢台路線

先生を応援しよう

社会のあらゆる分野に充満するギクシャクを解消したいと考えています。それぞれの業務で、いわゆる専門家だけに任せるのではなく、みんなで少しずつ支え合えばと思うのです。

今回は小・中学校の先生について書いてみます。先生方の仕事はともかく複雑です。子どもたちの指導、学校の安全・安心、保護者への対応、地域との繋がり、行政事務や校務、など。

昨今では、ICT活用や環境面への配慮も求められます。さらに教育を超えた仕事も増えているでしょう。時間をうまく使わないと収まりきれない、そんな日々ではないかと思いませんか。

考えてみれば、むかしは先生方にこれほど多くを求めていたでしょうか。義務教育も含め、地域社会や家族の役割はもつとしっかり果たされてきたはず。近代社会が学校という機関に求め続けてきたもの、それを少し減らすべきではないかということです。

経営に悩む市立病院では、応援団が複数立ち上がり効果も現れています。同じように、学校で苦勞されている先生たちを、みんなで応援しようではありませんか。

先生に求めるだけではなく、家庭や地域の役割を考え直してみましよう。先生は日々、個性豊かな日野っ子を力いっぱい指導しているのです。先生を応援しよう。